

北見工業大学学報

第234号 (2009年7月号)

目 次

入 試	平成22年度編入学試験の実施……………	2
	平成22年度入学者選抜要項の公表……………	3
研 究 助 成	平成21年度(財)日揮・実吉奨学会研究助成金の課題採択決定……………	5
	平成21年度シーズ発掘試験課題採択決定……………	5
	平成21年度共同研究の受入状況……………	6
	平成21年度受託研究の受入状況……………	6
	平成21年度奨学寄附金受入状況……………	7
受 賞	猪狩平三郎技術支援推進員(社会環境工学科)	
	平成20年度土木学会技術功労賞を受賞……………	8
諸 報	父母懇談会(春季・北見)を開催……………	9
	薬品管理支援システム全学説明会を開催……………	10
	「平成20年度教育優秀者賞」表彰式を実施……………	11
	道内国公立大学学長懇談会を開催……………	12
	国立大学法人旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学と 包括連携協定を締結……………	13
	オープンキャンパスの実施……………	14
日 誌	6月・7月……………	15

= 入試 =

平成 22 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 22 年度編入学試験の推薦による選抜、学力試験による選抜が実施され、各学科別の合格者数等は次表のとおりとなりました。

なお、編入学試験の社会人特別選抜については、志願者がいなかったため実施されませんでした。

学 科 名	推薦による選抜				学力試験による選抜			
	募集 人員	志願者	受験者	合格者	募集 人員	志願者	受験者	合格者
機械工学科	10 人	5	5	5	若 干 人	0	0	0
社会環境工学科		1	1	1		2	2	1
電気電子工学科		0	0	0		2	2	1
情報システム工学科		1	1	0		1	1	0
バイオ環境化学科		0	0	0		2	2	2
マテリアル工学科		1	1	1		0	0	0
合 計		8	8	7		7	7	4

平成 22 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 22 年度入学者選抜要項が7月に公表されました。概要は以下のとおりです。

※詳細については本年 10 月発行予定の学生募集要項をご覧ください。

○入学定員（募集人員）

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入試
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	160人	70人	50人	40人
	社 会 環 境 工 学 科				
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	140人	63人	42人	35人
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科				
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	110人	46人	36人	28人
	マ テ リ ア ル 工 学 科				
工学部合計		410人	179人	128人	103人

※ 入学後1年間は各系に所属し、2年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。

② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○選抜方法等

一般入試

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身 学校長から提出された調査書の内容を総 合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個 別学力検査の成績及び出身学校長から提出さ れた調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成 22 年 1 月 25 日(月)から平成 22 年 2 月 3 日(水)まで(必着)	
試 験 日	個別試験は課さない	平成 22 年 3 月 12 日(金)
合格発表	平成 22 年 3 月 6 日(土)	平成 22 年 3 月 20 日(土)

推薦入試

選抜方法	学校長より推薦された者について、調査書、推薦書の内容及び小論文、面接の結果を総合して行う。
出願期間	平成 21 年 11 月 2 日(月)～平成 21 年 11 月 9 日(月)
出願要件	高等学校又は中等教育学校を平成 22 年 3 月卒業見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ志望する系への能力・適性等について学校長が責任を持って推薦できるもの ①高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者 ②志望する系の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者
選抜期日	平成 21 年 12 月 4 日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成 21 年 12 月 16 日(水)

帰国子女特別入試

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、成績証明書等の成績、小論文及び面接の結果を総合して行う。
出願要件	略
出願期間	平成 21 年 11 月 2 日(月)～平成 21 年 11 月 9 日(月)
選抜期日	平成 21 年 12 月 4 日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成 21 年 12 月 16 日(水)

○試験教科・科目・配点

		教科	科目	配点	合計
前期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	国語 1 科目	100	1000
		地歴・公民	地理歴史または公民から 1 科目	50	
		数学	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから 1 科目	300	
			数Ⅱ・数B、工業数理基礎から 1 科目 注①		
		理科	理科から 2 科目	300	
	外国語	外国語から 1 科目 注②	250		
	個別学力検査	課さない			
後期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	前期日程と同じ	50	1000
		地歴・公民		50	
		数学		100	
		理科		100	
		外国語		200	
	個別学力検査	数学	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	300	
		理科	物Ⅰ・物Ⅱ、化Ⅰ・化Ⅱから 1 科目	200	

注①:工業数理基礎を選択できる者は当該科目の履修者等

注②:外国語のうち、英語にはリスニングテストを含む

= 研究助成 =

平成 21 年度(財)日揮・実吉奨学会研究助成金の課題採択決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	天然多糖への刺激応答性の付与による低環境負荷型ドラッグデリバリーシステムの創製	1,000 千円
機器分析センター	講師	大津 直史	スラリー埋入加熱処理を利用した高密着性ナノアパタイト被膜チタン材料の開発	1,000 千円

平成 21 年度シーズ発掘試験課題採択決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
技 術 部	技術職員	百武 欽二	大型氷単結晶を育成する簡易装置の開発	2,000 千円
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	3次元Si貫通敗戦のための新規成膜手法の開発	2,000 千円
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	プロテオミクスに基づく発行乳製品の機能性評価と生産プロセスの高度化	2,000 千円
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	食用担子菌の光誘導性タンパク質発現系の開発	2,000 千円
情報システム工学科	助教	前田 康成	既存データが少量でも分類可能な文書分類技術の高機能化開発と応用	5,000 千円
バイオ環境化学科	助教	多田 清志	キシリトールを糖質原料としたアスタキサンチン生産プロセスの開発	2,000 千円
機器分析センター	講師	大津 直史	スラリー埋入加熱処理を利用した高密着性ナノアパタイト被膜チタン材料の開発	2,000 千円
マテリアル工学科	教授	阿部 良夫	中性電解質を用いた相補型エレクトロクロミック調光ガラスの開発	2,000 千円

平成21年度共同研究の受入状況

平成21年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	粒子分散型複合材料の開発と評価	(社)北見工業技術センター運営協会
マテリアル工学科	教授	増田 弦	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	北見浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市企業局
社会環境工学科	准教授	永禮 英明	北見市浄化センターにおける汚水処理の高効率化に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	教授	堀内 淳一	下水汚泥の堆肥化に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	准教授	菅野 亨	ペーパースラッジ炭化物の高付加価値化に関する研究	道栄紙業(株)
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	使用済み乾電池から精製した酸化物をを用いたアルミニウムリサイクルシステムの開発	北海道立工業試験場
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	バイオマス資源を有効活用した道路法面緑化工法の検討	(株)構研エンジニアリング
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPS誘導空撮システムの河川海岸管理測量への応用	(株)エクサ設計
機械工学科	教授	羽二生 博之	GPS誘導空撮システムの農業地域測量への応用	(株)オーピス
電気電子工学科	准教授	菅原 宣義	送電設備の落水対策技術に関する研究(その5)	東京電力(株)技術開発研究所
社会環境工学科	教授	大島 俊之	構造物の維持管理と補修・補強効果に関する研究	(有)アミューズ
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	各種炭化水素・含酸素化合物の炭酸ガス還元剤としての性能評価	JFEスチール(株)

平成21年度累計 55件

平成21年度受託研究の受入状況

平成21年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	平成21年度摩周湖の透明度の低下原因解明と総合的環境保全に関する研究	(独)国立環境研究所	853,000
マテリアル工学科	准教授	南 尚嗣	平成21年度GEMS/Waterベースラインモニタリング(湖水の精密分析)	(独)国立環境研究所	999,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	総合的な土砂管理に関する検討	網走開発建設部	2,040,000
社会環境工学科	教授	榎本 浩之	平成21年度IARC-JAXA情報システム(IJIS)及び衛星データ等を利用した北極圏研究業務	国立大学法人北海道大学	4,400,000

平成21年度累計 8件

平成21年度奨学寄附金受入状況

平成21年7月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
地域共同研究センター	教授	鞆師 守	産学官連携活動の推進のため	鞆師 守	1,000,000
	学長	鮎田 耕一	ユーロトランポリンと補助台一式の購入助成金としてのため	北見工業大学トランポリン競技部OB会「北藤会」	100,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	(株)フジエンジニアリング	1,000,000
社会環境工学科	准教授	早川 博	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
社会環境工学科	教授	山下 聡	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
未利用エネルギー研究センター	教授	庄子 仁	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	研究助成のため	(財)リバーフロント整備センター	2,000,000
	学長	鮎田 耕一	研究者、研究生の交流支援のため (若手研究者の国際会議参加旅費の助成)	北見工業大学後援会	300,000
社会環境工学科	准教授	早川 博	屈折蛇曲する岩床河川における砂レキ堆の移動停止条件の研究のため	(財)北海道河川防災研究センター	1,500,000
機械工学科	教授	大橋 鉄也	加工硬化特性と組織に関する研究助成のため	(社)日本鉄鋼協会	275,000
社会環境工学科	教授	前田 寛之	工学研究助成のため	(株)イーエス総合研究所	1,200,000
情報システム工学科	助教	前田 康成	海外渡航旅費援助のため	(財)電気通信普及財団	270,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	気候変動による釧路川の治水・環境に関する対策提案を目指した検討のため	(財)北海道河川防災研究センター	900,000
社会環境工学科	准教授	後藤 隆司	工学研究のため	(有)アミューズ	100,000
社会環境工学科	准教授	永禮 英明	工学研究助成の為	(株)イーエス総合研究所	100,000
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	「天然多糖への刺激応答性の付与による低環境負荷型ドラッグデリバリーシステムの創製」に対する研究助成のため	(財)日揮・実吉奨学会	1,000,000
機器分析センター	講師	大津 直史	「スラリー埋入加熱処理を利用した高密着性ナノアパタイト被覆チタン材料の開発」に対する研究助成のため	(財)日揮・実吉奨学会	1,000,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	教育研究助成のため	共成製薬(株)	700,000
社会環境工学科	教授	前田 寛之	地すべりと粘土鉱物との関係のため	(株)伊丸特殊工事	600,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援(奨学金支給)	北見工業大学後援会	450,000

平成21年度累計 38件

= 受賞 =

猪狩平三郎技術支援推進員（社会環境工学科） 平成 20 年度土木学会技術功労賞を受賞

（社会環境工学科）

社会環境工学科技術支援推進員の猪狩平三郎氏は、土木学会より「平成 20 年度土木学会技術功労賞」を受賞しました。

これは土木学会賞の1つで、長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実績の積み重ねを通じて土木工学の発展に功労があった者を対象に、全国の大学、公的機関、建設系会社などの技術者から、毎年5～8名程が表彰されるものです。

同氏は昭和 41 年4月に、4年制大学として新規スタートした北見工業大学の土木工学科に就職しています。以来平成 20 年3月の定年退職までの 42 年間にわたって、一貫してコン

クリート工学研究室の技官および技術職員として、研究室の教育研究活動を支えて来られました。また定年前の5年間は技術部総括技術長として大学全体の技術系職員を指導する役割も果たされています。

同研究室の研究テーマは「コンクリートの耐凍害性」、「海洋コンクリートのスケーリング」に代表されますが、その中での猪狩氏の功績として表面剥離面積測定法の開発が特筆されます。この開発は同研究室の研究遂行に大きな力になるとともに、当該分野の発展に大きく貢献しました。これらの功績が認められ、この度の受賞となりました。



= 諸報 =

父母懇談会（春季・北見）を開催

（学生支援課）

6月20日（土）、父母懇談会（春季）をC122講義室を説明会場として、外国人留学生及び大学院博士後期課程を除く全学生の父母を対象に、3年連続して大学祭の開催に併せて実施しました。

当日は、全国から146組196名の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、鮎田学長から挨拶があった後、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会会長からは、

当会の活動状況が報告されるなど、様々な情報が父母に提供されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。

また、会場前においては、大学認定商品の菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大好評を得ました。



全体説明会の様子

薬品管理支援システム全学説明会を開催

(施設課)

本学では昨年に引き続き、薬品を取り扱う教職員や学生を対象とした薬品管理支援システム全学説明会を6月23日(火)に開催し、今年度から新たに本学の研究室に配属された教職員や学生を中心に22名が参加しました。

同システムは、薬品の受払管理を支援するために、当大学の技術部職員の協力を得て本学独自に開発されたもので、当大学環境安全センター化学物質管理グループ所属の教員より、システムの概要と特徴、管理体制、システムの導入方法、受払の入力方法等の説明が行われました。

また、薬品管理支援システムロードマップにより、今年度から毒劇物については本格運用を、その他の薬品については試行運用を開始することを説明し、特に毒劇物の確実な受払登録と、PRTR指定物質についての来年度からの本格運用に必要な準備のために、今年度末までの受払登録を重ねてお願いしました。

同システムの説明の後には、施設課より化学物質を排水に流さず適切な処理をするよう参加者に依頼し、説明会を終えました。



システムの説明を受ける参加者

「平成20年度教育優秀者賞」表彰式を実施

(学生支援課)

6月25日(木)、平成20年度教育優秀者賞の表彰式を実施しました。

ベストティーチング賞は平成13年に創設されたもので、今回は平成20年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導等が顕著であるとされた教員9名(各学科8名、共通講座1名)が受賞し、このうち1名は3度目、3名は2度目の受賞となりました。

なお、授業形態や教材などの工夫で教育改善が顕著であった教員・グループを表彰する「エクセレントプログラム賞」は、3教員・グループが表彰されました。

表彰式では、学長から一人ひとりに盾が授与された後、学長から受賞者に対しお祝いの言葉がありました。

受賞された方々は、以下のとおり。

「ベストティーチング賞」(敬称略)

機械工学科	教授	富士明良
社会環境工学科	助教	白川龍生
電気電子工学科	教授	谷藤忠敏・助教 保莉和雄
情報システム工学科	准教授	吉田秀樹
バイオ環境化学科	教授	青山政和
マテリアル工学科	教授	阿部良夫
〃	准教授	伊藤英信
共通講座	准教授	山田健二

「エクセレントプログラム賞」(敬称略)

機械工学科、社会環境工学科	各教員
社会環境工学科	中山恵介
マテリアル工学科	射水雄三、山田洋文



学長を中央に「平成20年度ベストティーチング賞」受賞者(前列)と
「平成20年度エクセレントプログラム賞」受賞者(後列中央)

道内国公私立大学学長懇談会を開催

(総務課)

7月17日(金)、本学が当番大学として、道内国公私立大学学長懇談会を北見東急インに於いて開催しました。17回目を迎える本懇談会は、大学が抱える共通の諸課題について協議するとともに、広く意見及び情報の交換を行うことを目的として開催されており、懇談は

「高大連携」「地域連携」の2つの話題をテーマに行われました。本学の取組について、高橋、田牧両副学長から現状報告が行われ、各大学からも特色ある取組内容の紹介があり、活発な意見交換が行われました。



地域連携のあり方について、本学の現状報告を行う高橋副学長



各大学から特色ある取組内容の紹介が行われた懇談会

国立大学法人旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学と 包括連携協定を締結

(企画広報課)

7月17日(金)に北見市内ホテルにおいて、国立大学法人旭川医科大学及び日本赤十字北海道看護大学と包括連携協定の締結式を行いました。

この協定は、三大学が行う教育・研究活動全般における交流及び連携を推進するとともに、相互の教育・研究の一層の進展と地域社会及び国際社会の発展に資することを目的としており、学生の教育・研究及び学生が行う諸活動に対する支援、学術研究の推進、地域連携活動の推進に関することなどについて連携を図るものです。特に、本学が平成22年度に設置を計画している大学院博士後期課程医療工学専攻のため不可欠なものであり、医学、

看護学の知識を持った工学専門技術者の育成、また、工学における研究成果の医学、看護学分野への応用など、本学が実施する教育研究、社会貢献に対して大きな力になることが期待されています。

締結式では、協定書へのサインの後、鮎田学長、吉田旭川医科大学長、石井日赤看護大学長それぞれから抱負が述べられました。また、来賓として列席いただきました古屋北見医師会長、吉田北見赤十字病院長からの挨拶では、医療の現場から期待することなど挨拶が述べられました。また、締結式後の記者会見では報道関係者からも活発に質問が寄せられ、社会的な関心の高さを感じたところです。



協定締結後に握手を交わす三大学長



報道関係者の質問に答える鮎田学長(中央)

オープンキャンパスの実施

(入 試 課)

7月 25 日(土)に大学進学を希望する高校生等を対象としたオープンキャンパスが開催され、道内外から高等学校教諭、父母等を含む 350 人(昨年度より 118 人増)が参加しました。あいにくの雨模様でしたが、参加者は熱心に体験授業等に取り組んでいました。

学長挨拶、佐々木副学長による大学案内、3 系列紹介のリレートークが実施され、その後は各学科において体験学習第1部が行われました。昼食は大学生協の協力により、学食体験と

して参加者全員に大学生人気メニューが提供されました。

午後からも引き続き、体験学習の第2部が行われた後、コミュニケーションアトリウムにて各学科・在学生等による個別相談・キャンパス案内を実施して終了しました。

参加者からは、「大学を知ることが出来た」「受験に向けた目標になった」「面白かった」等の声が多く聞かれました。



学長挨拶



キャンパス案内



個別説明



学食体験

6 月

- 2 日 国際交流委員会
- 5 日 学生よろず相談室会議
- 6 日 北苑祭(～8日)
- 10 日 教務委員会
平成22年度編入学試験(推薦による選抜)
- 12 日 技術士養成支援講座
- 16 日 入学者選抜委員会
- 17 日 遺伝子組換え実験等安全管理委員会
平成22年度編入学試験(推薦による選抜)
合格発表
- 19 日 工農教育推進委員会
- 20 日 父母懇談会
大学祭(～21日)
奨学・奨励賞授与式
- 22 日 地域共同研究センター産学官連携推進員
会議
- 25 日 教育優秀者賞表彰式
健康チェック栄養相談
- 26 日 技術士養成支援講座
- 27 日 北見工業大学進学説明会(盛岡)
- 28 日 北見工業大学進学説明会(八戸)
- 30 日 発明審査委員会

7 月

- 1 日 平成22年度編入学試験(学力試験による選
抜)
- 3 日 施設環境委員会
「地域再生人材創出拠点の形成」事業
合同特別セミナー(～4日 足寄)
- 6 日 地域共同研究センター兼任教員会議
地域連携・研究戦略室ミーティング
- 7 日 入学者選抜委員会
- 8 日 平成22年度編入学試験(学力試験による選
抜)合格発表
- 13 日 技術士養成支援講座
- 14 日 教務委員会
- 17 日 三大学包括連携協定締結式
- 23 日 発明審査委員会
- 24 日 技術士養成支援講座
- 25 日 オープンキャンパス
- 28 日 交通安全講習会

